

令和元年6月定例会提出予定案件概要

名古屋港管理組合

《日 程》

| | | |
|-------|--------------|----------|
| 議員総会 | 令和元年5月31日(金) | 10時予定 |
| 定例会 | 令和元年6月7日(金) | 13時30分予定 |
| | 11日(火) | 10時予定 |
| 特別委員会 | 令和元年6月10日(月) | 10時予定 |

令和元年6月定例会提出予定案件

| 種別 | 件数 | 番号 | 件名 | 内容 |
|----|----|--------|-----------------------------------|--|
| 同意 | 2件 | 第2号同意案 | 監査委員選任の同意について（組合議会議員） | 名古屋港管理組合議会議員の失職に伴う選任 |
| | | 第3号同意案 | 監査委員選任の同意について（愛知県監査委員） | 名古屋港管理組合監査委員の任期満了に伴う選任 |
| 報告 | 3件 | 第1号報告 | 平成30年度名古屋港管理組合一般会計予算の繰越しの報告について | （繰越明許費） 大江ふ頭岸壁整備費始め15件 翌年度繰越額 3,609,227,528円 （事故繰越） 中川口通船門整備費始め5件 翌年度繰越額 36,204,880円 ※ 5件の事業は、全て1件の契約から生じたもの |
| | | 第2号報告 | 平成30年度名古屋港管理組合理立事業会計予算の繰越しの報告について | 西部第1貯木場北側埋立整備事業 翌年度繰越額 1,113,000,000円 |
| | | 第3号報告 | 専決処分の報告について（損害賠償の額の決定及び和解） | 本組合が管理する道路上での普通自動車の損傷賠償額 80,000円 |

(議員総会その他説明資料)

1 名古屋港管理組合中期経営計画2023中間案について

「名古屋港管理組合政策体系2018」の終了に伴い、経営の視点を取り入れた新たな「名古屋港管理組合中期経営計画2023」を策定する。令和元年6月に中間案のパブリックコメントを実施し、11月定例会に説明後、策定・公表する。

2 国際競争力の強化に向けた取組について

(1) コンテナ取扱機能の強化

- ・ 飛島ふ頭において、NCBコンテナターミナルR1・R2岸壁の水深15m化・耐震化を進めている（平成29年度から現地着手）。また、飛島ふ頭南コンテナターミナル拡張用地の整備に取り組んでいく。
- ・ 伊勢湾の港湾運営会社である名古屋四日市国際港湾㈱は、無利子貸付金を活用し、飛島ふ頭南コンテナターミナルでガントリークレーン2基の整備を進めていく。
- ・ 弥富ふ頭第1貯木場北側において、平成30年12月より造成工事を進めている。

(2) 国際バルク戦略港湾の取組

穀物輸入を取り巻く状況変化を見据えながら、関連企業や国と協議を行っていく。

(3) 完成自動車取扱機能の強化

金城ふ頭において、新規岸壁の整備（水深12m・耐震）及び保管用地の造成工事を平成30年12月より進めており、引き続き、早期完成に向けて取り組んでいく。

(4) 集貨拡大、産業立地の促進に向けた取組

- ・ 船社、荷主、商社等を対象とした利用促進懇談会等を開催予定。また、四日市港管理組合及び名古屋四日市国際港湾㈱と連携しPRを行う。
- ・ 海外では、名古屋商工会議所との共催による使節団や港湾関係者で構成する調査団を派遣し、中部地区のポテンシャルを積極的にPRしていく。

(5) 道路ネットワークの形成

名古屋環状2号線（西南部・南部）などの高規格幹線道路等の整備促進に向け、関係者と一体となって、国等に積極的な要望活動を行っていく。

3 新たな土砂処分場の確保への取組について

国は、新たな土砂処分場について、中部国際空港沖を候補地として選定した。本組合は、国等の関係機関と連携し、新たな土砂処分場の早期確保に向けて取り組んでいく。



4 名古屋港の防災対策について

(1) ハード対策

- ・防潮壁について、水際線に面し背後地盤高が低い区間の液状化対策等を優先的に進めている。
- ・防潮扉については、操作性の向上に向けたアルミ化による改良を行っている。
- ・堀川口防潮水門は、躯体の耐震補強工事を実施している。
- ・耐震強化岸壁について、老朽化対策と併せ耐震機能の強化、維持の対策を大江ふ頭、潮風ふ頭において実施している。
- ・大江川地区の地震・津波対策として、河口部締切施設の基本設計等に取り組んでいく。また、名古屋市と連携し、埋立て等による汚染土壌対策を進めていく。
- ・台風対策として、モータープール外周部に防護柵を設置し完成自動車の流出対策を実施する。

(2) ソフト対策

- ・名古屋港港湾機能継続計画（名古屋港BCP）及び伊勢湾港湾機能継続計画（伊勢湾BCP）について、実効性の向上に取り組んでいく。
- ・台風の接近に際し、想定される標準的な防災行動を整理した「フェーズ別高潮・暴風対応計画」を平成31年4月に取りまとめた。

5 親しまれる港づくりについて

(1) 名古屋港水族館

- ・平成30年度の入館者数は、約211万人となり、開館以来初めて2年連続で200万人を超えた。
- ・老朽化した施設の計画的な更新に向け、令和元年度は、アセットマネジメント推進計画の策定に取り組んでいく。それを踏まえ、施設の持続的な発展のため、今後20年間を見据えた中長期計画の策定（令和4年度目途：開館30年）に取り組んでいく。
《中長期計画：施設の補修・改修、補修の機会を捉えた新たな展示、イルカの繁殖環境など》
- ・名古屋海洋博物館において、伊勢湾台風から60年の節目に、企画展を開催予定（令和元年7～9月）

(2) クルーズ船

- ・平成30年の入港実績は40隻で、本年は37隻（4月22日現在）が入港予定
- ・ガーデンふ頭において3号岸壁の係船杭設置による延伸工事を行った。引き続き、同岸壁の老朽化対策及び屋根付通路の設置を進めていく。

(3) ガーデンふ頭再開発

- ・「ガーデンふ頭再開発基本計画」に基づき、開発エリアの確保や規制の緩和等について関係者との調整を進めてきた。
- ・既存施設の利活用や官民の役割分担等について、再開発の具体化に取り組んでいく。

(4) 金城ふ頭の交流拠点開発

- ・物流機能の高度化と交流拠点の形成を進めるなかで、名古屋市によるモノづくり文化交流拠点構想の計画が進められている。
- ・本組合としては、引き続き、物流機能と共存した交流拠点開発の円滑な推進に向け、名古屋市と連携し交通対策等に取り組んでいく。

(5) 中川運河の再生

- ・平成24年度に名古屋市と本組合が共同で「中川運河再生計画」を策定した。
- ・この再生計画に基づき、にぎわい施設の誘導や水上交通の実現に向けた取組、良好な水環境の創出に向けた取組などを行っており、今後も、名古屋市と連携しながら中川運河の再生に取り組んでいく。

(港湾物流機能強化特別委員会（仮称）提出予定案件)

1 港湾物流機能の強化に向けた取組について

ものづくり産業の今後の更なる発展に向けて、産業活動の指標となる主要貨物である、完成自動車・自動車部品・産業機械を対象とした港湾物流施策の展開について、調査・検討する。

2 港湾物流機能の現況

(1) 主要貨物の取扱量

- ・輸出貨物 約52,700千トンのうち、完成自動車、自動車部品及び産業機械で約74%
- ・輸出コンテナ貨物 約24,500千トンのうち、自動車部品、産業機械及び完成自動車で約60%
- ・輸入貨物 約75,200千トンのうち、原材料が大部分を占める中、自動車部品が約3%
- ・輸入コンテナ貨物 約24,200千トンのうち、自動車部品及び産業機械で約13%

(2) 主要貨物のふ頭別取扱状況

- ・完成自動車 約26,700千トン（金城ふ頭及び弥富ふ頭で31%、新宝ふ頭で62%）
- ・自動車部品 約12,700千トン（飛島ふ頭CT 73%、鍋田ふ頭CT 27%）
- ・産業機械 約3,600千トン（飛島ふ頭CT 52%、鍋田ふ頭CT 39%）

(3) 主な施設の配置状況

- ・完成自動車を取り扱うふ頭は主に3か所（金城ふ頭、弥富ふ頭、新宝ふ頭）
- ・自動車部品及び産業機械を取り扱う施設は3か所（飛島ふ頭東側CT、飛島ふ頭南側CT、鍋田ふ頭CT）

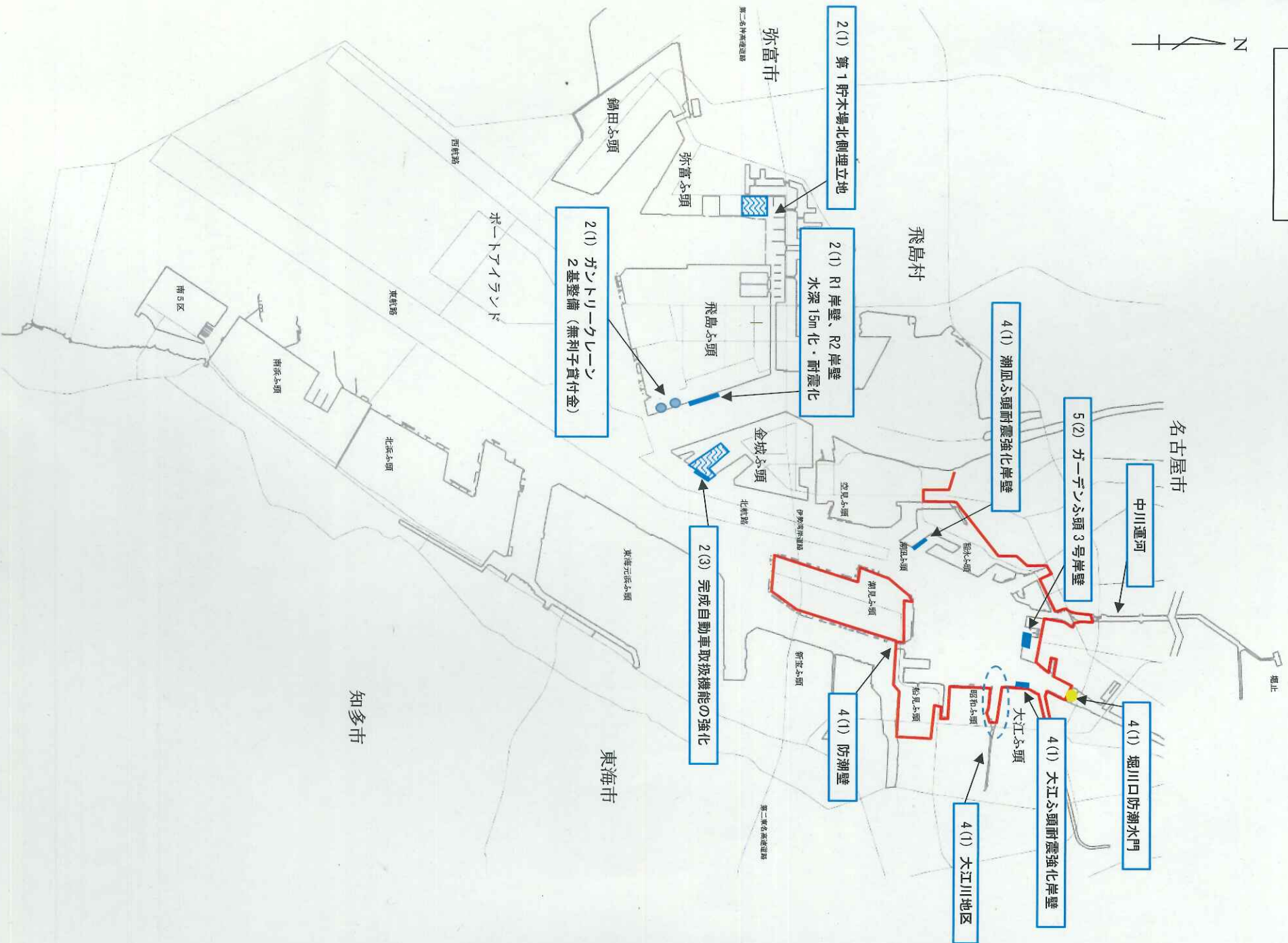
(4) 先進的取組の状況

コンテナ物流効率化のため、様々な先進的取組が進められている。（NUTS、集中管理ゲート、RFID、AGV、遠隔自働RTG、電動式RTG）

(5) 道路ネットワークの形成

名古屋環状2号線（西南部・南部）及び西知多道路などの広域幹線道路網の整備が進められている。

(参考)



知多市

東海市

名古屋市

飛島村

弥富市